

ボラード

Bollards

1. **適用範囲** この規格は、船に用いるボラードについて規定する。

備考 この規格の引用規格を、以下に示す。

JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材

JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材

JIS G 3454 圧力配管用炭素鋼鋼管

JIS G 3456 高温配管用炭素鋼鋼管

JIS L 2701 麻ロープ

2. **構造、形状及び寸法** ボラードの構造、形状及び寸法は、**付図 1** によるほか次のとおりとする。

(1) 礎板の高さ h 寸法は、最小値を示すが木甲板を張った鋼甲板に直接ボラードを取り付ける場合、**付図 1** に示すとおり木甲板の上面から最小値 15 mm 高くする。

(2) 適用ロープの径は、ボラードの強度に対応して用いることができる最大のものを参考のために示す。

(3) ロープさばきのためのつめは、注文者の指示によって取り付けてもよい。

3. **外観** ボラードの外観は、割れ、使用上有害なきず、さびなどの欠点がなく、仕上げは良好でなければならない。

4. **材料** ボラードの材料は、**表 1** による。

表 1

番号	名称	材料
1	柱	JIS G 3106 の SM400B 若しくは SM400C, JIS G 3101 の SS 400, JIS G 3454 の STPG 370 若しくは STPG 410 又は JIS G 3456 の STPT 370 若しくは STPT 410
2	礎板	JIS G 3106 の SM 400 B 若しくは SM 400 C 又は JIS G 3101 の SS 400

5. **外観検査** ボラードの外観検査は、目視によって行い、3.の規定に適合しなければならない。

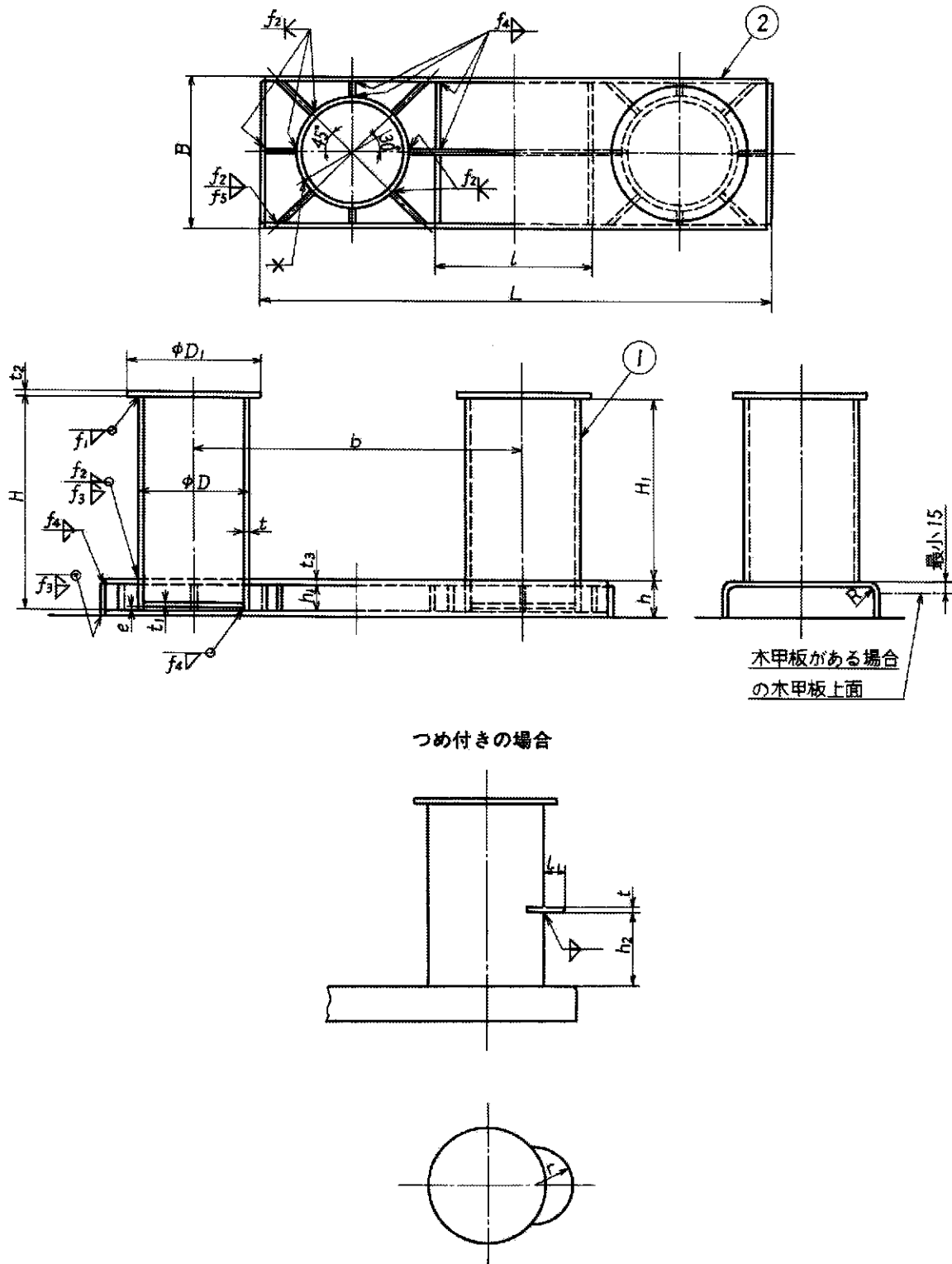
6. **製品の呼び方** ボラードの呼び方は、規格の名称又は規格番号及び呼び径（つめ付きの場合は、末尾に N を付記する。）による。

例 ボラード 100 又は **JIS F 2001-100**

ボラード 100N 又は **JIS F 2001-100N**

付図 1

単位 mm



付図 1 (続き)

単位 mm

呼び径	柱													礎板						
	D	D_1	H	H_1	最小 t	最小 t_1	t_2	h_1	e	b	h_2	l_1	r	B	L	最小 h	最小 t_3	l	R	リブ
100	114.3	145	196	150	10	6	7	40	6	250	—	—	—	165	445	50	6	70	15	6× 40
125	139.8	180	246	190	10	6	8	50	6	315	—	—	—	195	540	60	6	100	15	6× 50
160	165.2	210	316	250	10	6	9	60	8	400	—	—	—	225	670	70	6	145	20	6× 60
200	216.3	270	378	300	10	8	9	70	8	500	—	—	—	290	860	85	8	160	25	8× 70
250	267.4	330	470	380	11	10	9	80	8	630	190	60	80	360	1 065	100	10	215	30	10× 80
315	318.5	385	597	480	15	12	9	105	10	800	205	70	105	430	1 300	125	12	325	35	12× 105
355	355.6	425	663	530	17	13	12	120	10	890	230	80	120	480	1 475	145	13	360	40	13× 120
400	406.4	485	749	600	18	14	12	135	10	1 000	255	90	140	550	1 630	160	14	400	45	14× 135
450	457.2	550	841	680	19	16	12	145	10	1 130	275	100	160	620	1 840	170	16	450	50	16× 145
500	508.0	610	928	750	20	18	12	160	12	1 250	290	100	180	690	2 040	190	18	500	55	18× 160
560	558.8	670	1 025	830	22	20	12	175	12	1 380	315	110	200	750	2 240	210	20	560	60	20× 175
630	609.6	730	1 152	940	24	22	12	190	12	1 570	330	110	225	820	2 510	225	22	680	70	22× 190
710	711.2	840	1 294	1 050	25	24	12	220	14	1 750	350	120	255	960	2 840	260	24	710	80	24× 220
800	812.8	940	1 480	1 200	26	25	12	255	14	2 000	370	120	255	1 100	3 240	295	25	810	80	25× 255

付図 1 (続き)

単位 mm

呼び径	溶接脚長					参考 計算質量 (kg)	適用ロープ 最大切断荷重 P (kN)	適用ロープの径（参考）					
	f ₁	f ₂	f ₃	f ₄	f ₅			ワイヤロープ				麻 ロープ	合成繊維 ロープ
								(6×12)	(6×24)	(6×30)	(6×37)		
100	4	2	4	4	6	18.9	29	9	8	8	6.3	20	14
125	4	2	4	4	6	29.4	39	10	9	9	8	24	18
160	4	2	4	4	6	44.7	49	11.2	10	10	10	28	20
200	4	3	6	6	8	79.5	78	14	12.5	12.5	12.5	36	26
250	6	4	8	6	10	139	118	18	16	16	14	42	30
315	6	5	10	8	12	261	196	22.4	20	20	20	55	39
355	8	5	10	8	13	361	255	25	22.4	22.4	22.4	65	45
400	8	6	10	8	14	502	314	30	25	25	25	75	53
450	8	7	12	8	16	685	382	33.5	28	30	28	80	56
500	8	8	12	10	16	911	451	35.5	31.5	31.5	30	90	64
560	8	8	14	10	16	1 208	549	40	33.5	35.5	33.5	100	70
630	8	9	14	10	16	1 601	686	—	37.5	40	35.5	110	77
710	8	10	16	12	16	2 252	804	—	40	42.5	40	120	84
800	8	10	16	12	16	3 071	981	—	45	47.5	42.5	—	—

備考1. 柱のたて溶接継目が1か所の場合は、内側とする。

2. 計算質量は、すべて木甲板を張らない場合を示す。

3. 麻ロープは JIS L 2701 に、また、合成繊維ロープは財団法人日本海事協会認定のナイロン三つ打又は八つ打ロープによった。

関連規格 JIS G 3193 熱間圧延鋼板及び鋼帯の形状、寸法、質量及びその許容差

船舶部会 けい船用器具専門委員会 構成表（昭和 54 年 11 月 1 日改正のとき）

	氏名	所属
(委員会長)	小 山 永 敏	横浜国立大学名誉教授
	栗 山 劭	運輸省船舶局
	仲井真 弘 多	工業技術院標準部
	草 野 博	財団法人日本船舶標準協会
	釈 弘	財団法人日本海事協会
	山 田 清	株式会社アジア船舶工業社
	百合草 正 韶	船舶整備公団
	奥 山 孝 志	社団法人日本中型造船工業会
	大 友 義 雄	株式会社立野製作所
	寺 本 虎 夫	株式会社寺本鉄工所
	田 中 英 夫	住友重機械工業株式会社船舶本部
	富 川 直 彦	三菱重工業株式会社造船設計部
	長谷川 照 一	日本鋼管株式会社鶴見造船所
	平 田 勝	三井造船株式会社千葉造船所
	村 山 肇	川崎重工業株式会社造船設計部
	青 山 俊 久	ジャパンライン株式会社
	森 川 卓	社団法人日本船主協会
(事務局)	石 井 清 次	工業技術院標準部機械規格課
	津 金 秀 幸	工業技術院標準部機械規格課
(事務局)	小 林 秋 穂	工業技術院標準部機械規格課（平成 2 年 7 月 5 日改正のとき）
	山 形 智 幸	工業技術院標準部機械規格課（平成 2 年 7 月 5 日改正のとき）
(事務局)	高 橋 潔	工業技術院標準部機械規格課（平成 7 年 3 月 28 日改正のとき）